

のり海況速報 第11報 (22-11)

平成23年2月25日発行
千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議

資料 のり海況調査 (2/23 : 内湾, 2/24 : 内房北部)
関東・東海海況速報 (2/21-24), 東京湾口海況図(2/25)
拓南による観測データ (12/1-2/7)

【水温・塩分の状況】

内湾から内房北部海域の表層水温(図1, 2)は依然横這い状態が続いており, 9~13℃台になっています。

塩分は全域で30~33台後半となっています。

一方, 黒潮は先月末から変動しており, 現在(2/24)三宅島付近を通過して, 房総半島南東岸をやや離岸しながら東方向に流れているもよう。

このため, 大島西水道から相模灘・東京湾口に向かって暖水が波及しており, 本日(2/25)の東京湾口海況図によると, 金谷から久里浜間を結ぶラインの水温が千葉県側で16℃台まで上昇してきています。今後もこの動きには注意が必要です。

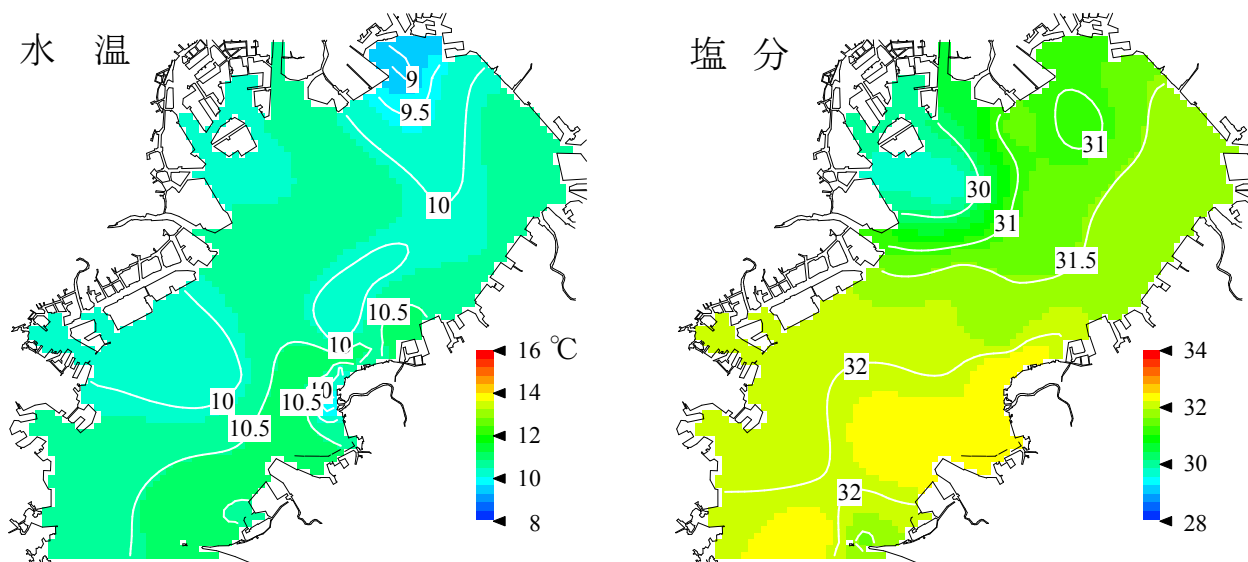


図1 表層の水温・塩分分布 (内湾 : 平成23年 2月23日)

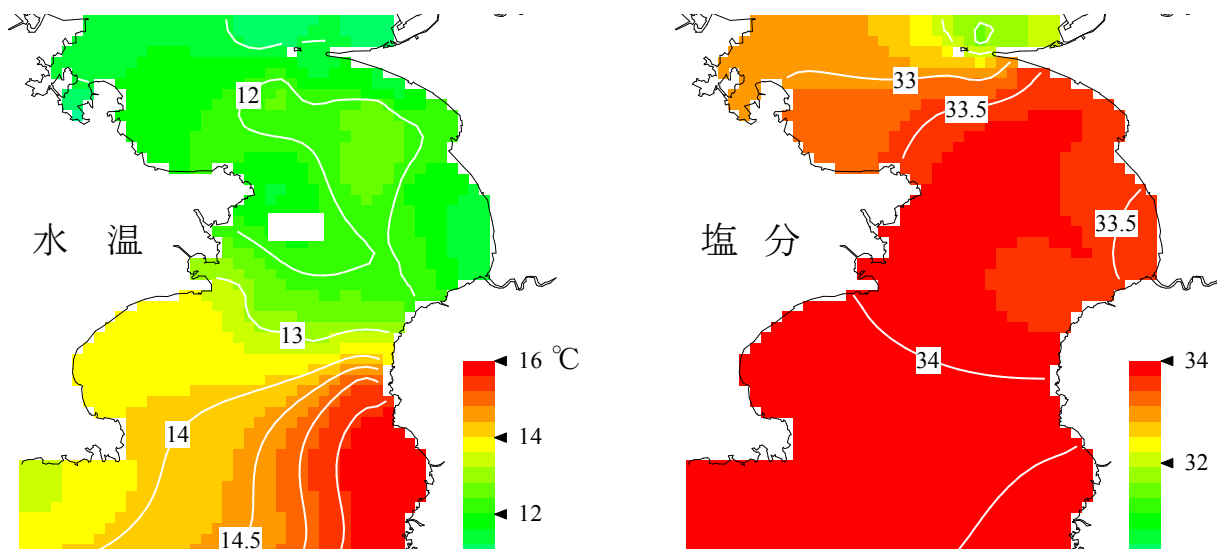


図2 表層の水温・塩分分布 (内房北部海域 : 平成23年2月24日)

【赤潮・栄養塩の状況】

2月上旬まで発生していた赤潮は中旬に終息したが、ここに来て再び北部海域で赤潮が発生し、pH 8.4~8.5、透明度 2m台を示し、水色も褐色のやや濃い赤潮状態です。また、千葉北部地区のノリ漁場内も赤潮状態となっています。

優占種は全域でノリの色落ち被害をもたらすユーカンピアで、内湾では増加し始めています。

表層の栄養塩(図3)は2月中旬のまとまった降雨で補給されましたが、ユーカンピアの増殖で、再びリンが減少し、船橋ではノリの色落ち濃度(10 $\mu\text{g}/\ell$ 以下)を下回っています。現状では、ノリ養殖にとってほぼ問題のない量ですが、今後、赤潮が長期間継続すれば、ノリの色落ち発生が懸念されます。

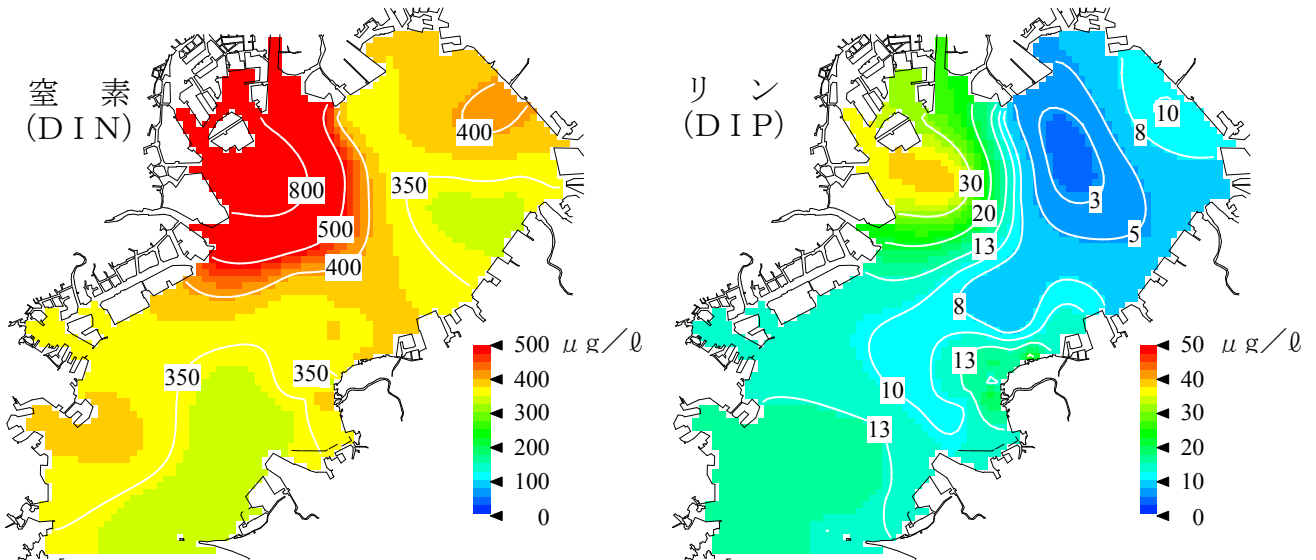


図3 表層の栄養塩濃度の分布 (内湾 : 平成23年 2月23日)

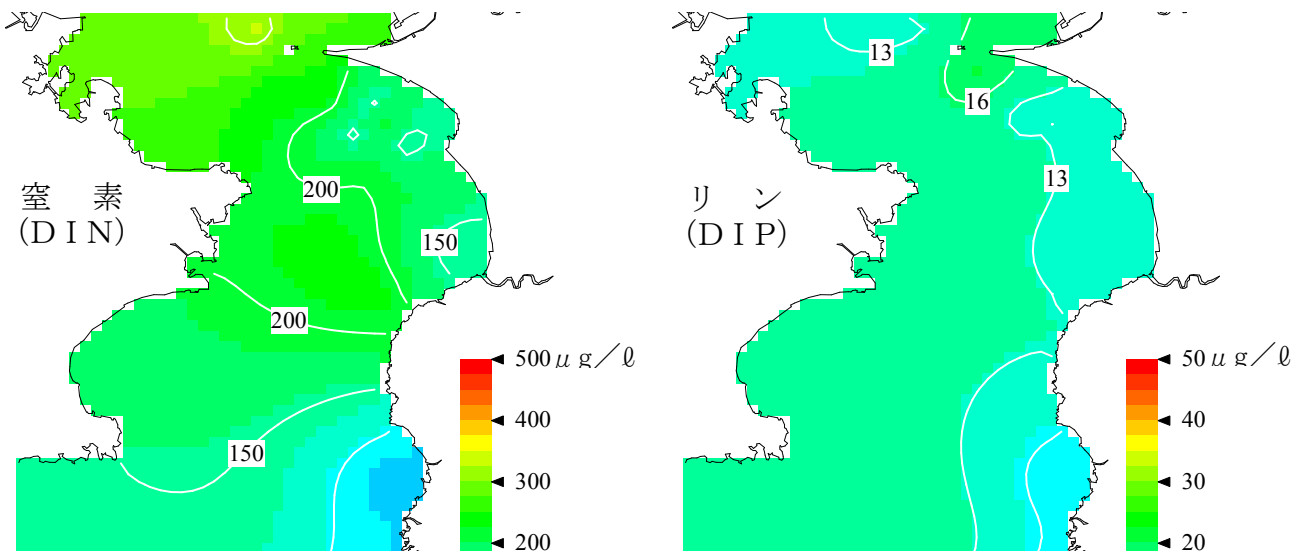


図4 表層の栄養塩濃度の分布 (内房北部海域 : 平成23年2月24日)

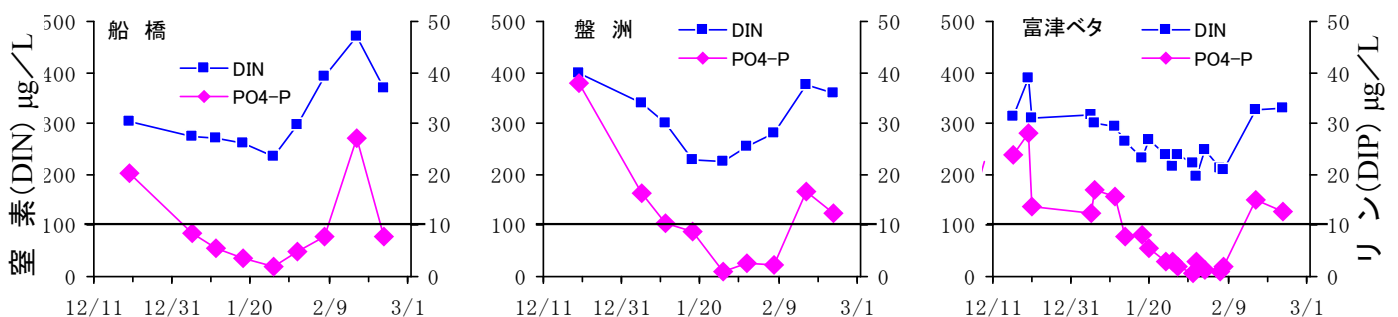


図5 各地先の栄養塩濃度の推移 (表層)